



2010-2011 RI President  
**Klinginsmith Ray**



2010-2011 D.2640 Governor  
**Mariko Yoneda**

年度最終号  
Last Letter

# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

## Main Contents

ガバナーメッセージ

ガバナー補佐年度を振りかえって  
ガバナー補佐 中本芳也

激震の？ 2010-2011年度  
ガバナー補佐 吉川寿一

ガバナークラブの会長を回顧して  
堺フェニックスロータリークラブ会長 片木修

被災地区2520視察報告 引き続き支援依頼

泉州KUMATORI RC認証状伝達式

賢明学院インターアクトクラブ・RI加盟認証・認証状伝達式

2010-2011

# LAST

NO.13



2010-2011年度 ガバナー

米田 真理子

Mariko Yoneda

## GOVERNOR MESSAGE

友情は素晴らしい  
それは人生の小道を照らし  
喜びを広げます

ポール・ハリスは言っています。相手を侮辱するのは、友情をかちうる手段として最低です。他の人たちの尊敬をかちうる一番良い方法は、礼儀作法の簡単なルールを守ることです。もしそれで望む結果が得られなければ、何をしてもだめでしょう。と。

ガバナーノミニーとして10ヶ月余り、ガバナーエレクトとして1年、ガバナーとして1年、お陰様ではほぼ3年の間、皆様の温かいご支援を頂き、6月30日をもって無事ガバナーとしての任務を終了することができます。

新クラブとして、モーニング例会・ナイト例会2つのロータリークラブを創立し、3つのインターアクトクラブを今年度創立いたしました。今期の日本の記録であろうと考えます。上海シンポジウム(120名参加)、地区大会(1,600名参加)、インターアクトクラブ海外研修(60名参加)、WCS現地視察(55名参加)、他地区の地区大会参加8回、ガバナー会4回、国際大会信任状提出参加、2640RLI初開催(計5回研修会)、財務委員会設置、ガバナー指名委員会の内規設定等々、多くの行事と改革をこなすことができました。皆様のご支援の賜物と篤く御礼申し上げます。

3月11日には国難とも言える東日本大震災が発生しました。世界史上、未曾有の被害を受けられた皆様方には、心よりお悔やみお見舞い申し上げます。被災地支援活動に多数のクラブ様ならびに会員皆様のご協力いただきました事に敬意を表したいと思います。震災支援につきましては引き続き地区奉仕プロジェクトカウンセラーとして復興支援に取り組みたいと思っております。

後任には大変ご立派な大澤徳平バスターガバナーがアクティングガバナーとして19年ぶりに就任されます。日本のロータリーのいや、世界のロータリーの話題となることでしょう。

大澤バスターガバナー様は英知と決断力の優れた素晴らしいロータリアンでおられ、さらにRI会長レイ・クリングスミス氏が、「理想のガバナーだ」と公言されて指名された方ですから、DGEの選任について混迷を深めた第2640地区にとっては救世主となられることは間違いありません。そして日本でただひとつの職業分類である「能楽堂」もきっと注目の的でしょう。私たちはこのDGEの空白を埋めてくださったRI会長レイ・クリングスミス氏に感謝申し上げます。私は直前ガバナーとして全力でご支援申し上げる所存です。

最後に、岩手盛岡に震災被災地区視察にガバナー会一行で6月8日に行った時(陸前高田での海岸撮影写真)に遭遇した宮沢賢治の詩をお伝えして、感謝の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。



この四ケ年が  
わたくしにはどんなに楽しかったか  
わたくしは毎日を  
鳥のように教室でうたってくらした  
誓っていうが  
わたくしはこの仕事で  
疲れをおぼえたことはない

諸君よ紺いろの地平線が膨らみ高まるときに  
諸君はそのなかに没することを欲するか  
じつに諸君はその地平における  
あらゆる形の山岳でなければならぬ

諸君はこの颯爽(さっそう)たる  
諸君の未来圏から吹いてくる  
透明な清潔な風を感じないのか

それは一つの送られた光線であり  
決せられた南の風である

諸君はその時代に強いられ率いられて  
奴隷のように忍従することを欲するか  
むしろ諸君よさらにあらたな正しい世界をつくれ  
宇宙は絶えずわれらによって変化する  
潮汐や風  
あらゆる自然の力を用いつくすことから一足進んで

諸君は新たな自然を形成するのに努めねばならぬ  
新しい時代のコペルニクスよ  
あまりに重苦しい重力の法則から  
この銀河系を解き放て  
新たな時代のマルクスよ  
これらの盲目的衝動から動く世界を  
すばらしく美しい構成に変えよ

新しい時代のダーウィンよ  
さらに東洋風静観のチャレンジャーにのって  
銀河系空間の外にも至って  
さらに透明に深く正しい地史と  
増訂された生物学をわれらに示せ  
衝動のようにさえ行なわれる  
すべての農業労働を  
冷たく透明な解析によって  
その藍いろの影といっしょに  
舞踊の範囲に高めよ

新たな詩人よ  
雲から光から嵐から  
新たな透明なエネルギーをえて  
人と地球にとるべき形を暗示せよ

(宮沢賢治詩集より引用)



## ガバナー補佐年度を振りかえって。

IM4組ガバナー補佐  
中本 芳也

一言で表現すると、とにもかくにも激動の一年でした。

ある日突然に米田ガバナーの来訪を受け、そのロータリーに対する熱い想いに共鳴し即座に受諾しました。ロータリーにはNoがないとかねがね諸先輩より承っていましたし在籍25年のご恩返しに微力ながら頑張ってみようと思ったような事でした。そして年度が始まる前にガバナー補佐としての心構えと実践に向けての研修を受け、意気揚々と新年度を迎えました。それが今日いまだに次年度の地区協議会が開催されていない現実を誰が想像できたでしょうか。

すべての事の発端は、順調に出帆したはずがしばらくして噴出した林エレクト問題でした。

昨今はめざましい情報化社会ですから、それはもう膨大な偽情報も含めていろんな言い分がガバナー事務所に届きました。ロータリアンだけでなくマスコミも含め部外者からの物もあったと聞き及んでいます。地区内ではそのような情報に惑わされ混乱が生じてしまいました。地区では昨年の11月23日に事態を收拾すべく、クラブ会長幹事会を開催したところロータリーの会議で怒号ヤジが飛び交う私にとっては初めての経験でまったく驚きの世界でした。まるでテレビで見る国会中継のごとくで、とても奉仕の理想を志す紳士淑女の集まりであるロータリーの会合とは思えない様相を呈していて、愕然としたことを思い出します。

しかし私のような些細な事でうろたえるような凡人ではなく、米田真理子ガバナーは毅然として、そのガバナンスを発揮すべく行動した事実には敬服しました。

ともかく終始一貫して信念を曲げない、まったくブレない姿勢には優れたリーダーとしての姿を勉強させてもらえました。そして粘り強い。人間として、経営者としても立派な手本となるan Amazonです。そういう意味でよい勉強と貴重な経験をさせていただいた1年であったと感謝しています。ガバナーご本人に言わせると事も無げに『いや 頑固なだけですよ』とおっしゃいますが、決してそうではありません。

一年間いろんな怪文書やねつ造された偽情報が流布しましたが、唯一ガバナー事務所から発した各クラブ宛の公文書のみが真実であり歪曲されたものでない事がいま実証され安堵しています。任期中に何度も多くのロータリアンから流布する書簡への回答を求められ返答を促されました。重要な案件については何度か小野地区代表幹事から通知を発信しました。しかし私は怪文書が出る度に驚愕しろたえてしまいました。前述のごとく米田ガバナーは毅然として冷静で一切動じることはありませんでした。『補佐さん、慌てなくてもいいですよ、真実ではないのですから。いずれそれが明確になり正義は勝ちますよ』といつも同じ答えでした。この姿勢には全く感心したようなことです。

また、高額な使途が明確でない資金が地区に留保されていることが種々問題を起こす原因かと思います。何らかの公平な形で拠出した各クラブへ還元すべきではないかとガバナー補佐会議でも議論されてきましたが残念ながら未解決の状態です。いますべてを可能な限りディスクローズして旧来の陋習を破り、新しく風通しのよい2640地区になることを望んでいます。まもなく米田年度も終わりますが、2640地区の改革とロータリーの目指す夢計画の実現に向けて、近々RI会長が任命する予定の次年度ガバナーの指導のもとに、地区一丸となって“楽しいロータリー”になることを祈ってやみません。

2011/06/12記

# 激震の? 2010-2011年度

IM5組ガバナー補佐  
吉川 寿一



今年度がまさに終わろうとしている。米田DG 年度は、前半はクラブ公式訪問、地区大会が順調に進捗した。後半は地区委員会行事、IMミーティング、クラブ創立周年記念行事等が震災自粛を除いて年度末まではほぼ予定通り実施された。

私の属するIM5組では、河内長野RC創立50周年記念式典、同ローターアクトクラブ35周年記念式典、松原RC 「健康づくり 特別講演」、美原RC創立30周年記念式典等々が無事終了した。

しかし地区大会直前ころからDGEの適格性が問題となり議論が高まった。情報合戦が繰り広げられ、それは国際協議会開催期日に向けてより激しくなり、個別情報には信憑性が疑われるものや人権に係わるものも混じっていた。クラブ理事・役員はじめ会員皆様の困惑、混沌は大きかったと思います。我々は早期解決のため、RIの見解、RI理事会の調整をも繰り返し求めた。RIの距離の遠さと、地区の自律性の重要性を痛感することとなった。

このような翻弄対応中の3月11日、東日本大地震が起こった。早速、災害支援対策本部を組織し、支援物資を現地まで搬送した。一方、クラブからの義援金と地区資金を加え1千万円をガバナー会の支援委員会にも送金(第1次)しました。

被災地の一刻も早い復旧・復興を願い、後方支援も続けなければなりません。

大地震・津波、余震さらに原子力発電所事故の激震が地球市民のロータリアンにも続いています。

CO2削減の有力手とみなされてきた原子力発電所が想定外の事故処理に追われている。福島原発以外の原発も、定期点検(13ヶ月ごと)後の稼働再開(原子炉等規制法、関連法、環境協定等)が当該県知事の許認可のため全国54基中14基しか、または全てが認められない、と予想されている。そのため全国に亘り今夏の電力不足が危惧されている。関西電力は企業、電鉄、家庭等への15%節電要請をしている。地球環境保全の意味からも風力・太陽光・水力・地熱発電等の再生可能な自然エネルギーによる代替、補充が重要である。しかしこれら手段の充足には相当の年数を要するかもしれない。当面は各業種、各個人の節電努力で乗り切る方法だけが選択肢なのだろうか。

高度成長期を通じて、利便性と豊かさの向上がもたらされた一方で、地球の温暖化や生物種の減少、有害物質の氾濫等の地球環境問題を発生させ、人類の生存基盤を劣化させてきた。その結果、この100年間で0.7℃の温度上昇と約15cmの海面上昇がもたらされ、世界的な異常気象として干ばつと集中豪雨が隣接し、熱波、竜巻、強風等が混在する時代に入ったと言われてきた。

しかし、節電の結果、皮肉にも冷房室外機やOA機器等からの人口排熱の低減が図れるかもしれない。さらには屋上緑化、壁面緑化による省エネ、水田、風の道、ピオトープ等あらゆる工夫による地球温暖化防止を配慮する節電対応が求められる。江戸時代のある藩主は村民に新田開発を指導する傍ら、水田からの風を受ける風上に集落(住宅)造りを指示したという事例や、ドイツのシュツットガルト市は盆地に出来上がった都市で、大気汚染を防ぐ必要もあり、風の道としての緑地帯をくさび状に整備し、周囲の丘からの涼しい風を市内に引き入れ、ヒートアイランド現象を緩和させようとしていること等、今こそ英知を結集する時である。

1992年、リオネジャイロで開催された環境と開発に関する国連会議(地球サミット)で世界の都市・地方自治体代表が採択した宣言(クリチバコミットメント)がある。それによれば

「地球が生き残るためにはローカルなアクション(地域規模での活動)が不可欠なのである。まず最初の一步は、現状以上には状況を悪化させず、状況を改善していくこと。急激な変化より、むしろシンプルな意見が物事を良い方向へ進めていくであろう。このようなアイデアは、自治体の力を結集して生まれ発展していくものであり、共同体の参加は不可欠なのである。都市は持続可能でなくてはならない。都市では無駄は最小限にし、最大限効率化を図り、節約していくべきである。

これを実行する都市は、他の都市と知識や経験を共有することによって世界的な変化の火付け役となれるのである。そして、その積み重ねが新しい地球規模の連帯感を生むのである。」と約束した。その上で、人類の具体的な行動計画としてアジェンダ21が策定された。その実施に役割を担う都市は、ローカルアジェンダ21を市民と合意することを求めている。

地域(都市)を育み大陸(国連)をつなぐ画期的な会合であった。

地球サミットの結論として、今日の環境政策の理念は、環境(負荷低減や生物多様性)と経済(雇用など)と社会(地域コミュニティ)を統合した概念である「持続可能な社会」を実現していくことである、としている。

ここに「持続可能な発展」(Sustainable Development)の理念が確立された。

地域環境、地域経済、地域社会を育み、大陸をつなぐローカルアジェンダ21の実行のため「持続可能な発展」を後援するとともに、国際ロータリー第2640地区の良好な住環境と「持続可能な発展」を願ってやみません。

# ガバナークラブの会長を回顧して

堺フェニックスロータリークラブ会長  
片木 修

顧みますと、2008年の9月11日の私どものクラブの臨時総会で「2009-10年度よりCLPを採択する」旨の決議が行なわれ、これに伴うクラブ定款・細則及び細則内規の改正が行なわれました。この改正は、敬愛する米田真理子会員が多数のPDGからの推挙を受けられて、ガバナーノミニーに指名され、これを承諾された直後のことで、CLPの採択も、時の流れに沿った改正であるという認識はあったものの、この改正によって私のところにクラブ会長というような大役が回ってくるなどということは露知らず、看過してきました。

もともと、私は元の職場の先輩の強いつの勧めで当クラブに入会したものの、住所地がクラブのエリアから離れていることと、公務員を退職した後の、言わば余禄のような仕事であるため、これと言った活動もせず、数合わせの会員で、会員として存在していることに価値があるという程度の認識で、常々「会員が50名になったら退会させてもらうで!」「役がきたら、退会するで!」と言ってきました。

クラブ結成後3年目に会員数が48名となり、あと3名増えれば隠退させてもらえると喜んだものの、その後はご存知のとおり伸び悩みで会員数が50名に達することはありませんでした。それでも「数は力」一人でも多い方がクラブのためとの考えから退会には至らず、ロータリーの職業奉仕を心のお守りとしておりました。

ところが、その年の10月ごろになって、「2009-2010年度の会長エレクトをやってほしいとの要請がありました。私より会長エレクトに相応しい方はいくらでも居られるので、私よりもっと優秀な方が見つけられるだろうと思っているうちに年が替わってしまいました。

しかし、平成9年2月6日の練習例会に初出席して共に「堺フェニックスロータリークラブ」の命名に参加した米田会員が264



0地区のガバナーノミニーとしてガバナー就任に向かって精進しておられるのを目のあたりにし、米田会員から「ガバナー年度はクラブ会員の主要な会員は地区の役員となり行事で忙しいので、片木さんはクラブの留守番だけしてくれればよいので、留守番役の会長をしてほしい」と言われて、縁の下の力持ちで、クラブのために少しでも役立つならば、と思って承諾させていただいた次第です。

そこで、私は、2010-2011年度のクラブの基本方針を「自らの足元を固めて、2640地区のロータリアンのために!」といたしました。

つまり、米田真理子カバナーが些かの支障もなく活躍していただけるように、クラブが一つになって総力を挙げて支え、協力することが私たちに与えられた使命であることを各会員に認識して貫うとともに、これを各会員に実行していただくことといたしました。

そして、7月に入って順調に2010-2011年度がスタートした訳ですが、8月になってガバナーエレクトの選任手続きに問題があることが判明するとともに、カバナーエレクトの経歴等について地区会員に十分に説明されていないことが問題となって浮かび上がってきました。

米田ガバナーは、手続要覧に定められているキチットした方法で選任されるべきであると主張され、選任に従事されたPDGは、選任方法には瑕疵はなかったと主張されたわけです。

いろいろな事情があるのかも知れませんが、私たちは会費を払ってロータリーの活動に参加しているわけですから、選任に従事されたPDGは私たち会員に対して、選任方法は勿論のこと、選任された人物について私たち会員が将来のガバナーとして尊敬できる資質と能力を備えた人物であるということを、十分に理解でき、納得できるような説明をしていただく必要があると思うわけです。

エド・フタRI事務総長も職を去るに際して「ロータリーで最高の地位とも言える一会員に戻ります」と述べておられます。最高に尊重されるべきは一般会員の意見であり、役職に就かれている会員の地位に基づく意見や判断は、これら一般会員の意見を踏まえてなされるべきと考えますが、如何でしょうか？

米田ガバナーは、また、女性特有の鋭い感覚で、ロータリアンのトップとして、今後益々重要となってくる青少年を対象とする社会奉仕活動について、対象とする青少年は勿論のこと、その父兄や学校当局などロータリアン以外の方々から信頼される奉仕活動をするためには、如何なる方法をとるべきか、このままの体制で信頼が得られるのかとすることについて、頭を痛めておられました。

最終的に、米田ガバナーの目指しておられる地区運営の正常化を理解し、容認された林ガバナーエレクトが本年4月14日に辞任され、この問題は決着を見ましたが、2010-2011年度の地区大会終了後に、米田ガバナーがめざしておられる地区運営の正常化の動きに対して、林ガバナーエレクトを担いで地区を動かそうとする会員との間で意見の対立を見ることとなりました。

昨年7月の発足時には考えられないような事態が発生したわけですが、ロータリーの目指す奉仕の心は一つです。ボタンの掛違いでこのような事態が起りましたが、冷静に話し合えばわかることと思います。

マタイ伝第9章第17節に「新しき酒は、新しき皮袋にいれよ」と述べられています。

古い上着は脱ぎ捨てて、刻々と変化する時代に即したロータリー活動を実行するためには、これに合致したものにならなければなりません。

地区の組織や人事も刷新する必要があるのではないのでしょうか？

そのためには、自我に捉われずに、2640地区の名誉のために各会員が心一つにして、これに取り組まなければならないことを痛感している次第です。

# ガバナーエレクト紹介



国際ロータリー第2640地区  
2010-2011年度

ガバナーエレクト 大澤 徳平

生年月日	1932年11月5日
所属クラブ	堺ロータリークラブ
最終学歴	和歌山大学経済学部卒業
職歴	堺能楽会館 館主    ダイトクビル 自営 堺市教育会 会長
ロータリー歴	1973年11月 堺ロータリークラブ 入会 1978～79年 第266地区青少年交換委員 1978年7月 バークレー交換学生派遣団団長 1979～80年 第266地区青少年交換委員 1980～81年 クラブ 幹事 1983～84年 第264地区幹事 1984～85年 第264地区代表幹事補佐 1986～88年 第264地区広報委員長 1988～89年 クラブ 会長 1989～91年 第264地区国際奉仕部門カウンセラー 1992～93年 第2640地区ガバナー
職業分類	能楽堂
R財団寄付	マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(11回) ベネファクター(2回)
米山寄付	米山功労者(10回)
表彰	1997年7月 堺市功績賞(教育) 2002年10月 最高裁判所 長官 表彰 2003年7月 堺市特別功績賞(文化) 2005年11月 藍綬褒章 受章

## ロータリーの初代事務総長



ロータリーの初代事務総長  
チェスリー・ペリー氏

7月1日、ジョン・ヒューコ氏が12代目のロータリー事務総長に就任します。今回は、ロータリーの初代事務総長、チェスリー・ペリー氏についてご紹介します。

チェスリー・レイノルズ・ペリー氏は、米西戦争帰還兵で元シカゴ市立図書館職員でした。1910年8月、結成間もない全米ロータリー・クラブ連合会から全会一致で幹事に選出されたペリー氏（役職名が「事務総長」に変更されたのは、退任の直前、1941-42年度のことでした）。この役職は月給100ドルの非常勤職であり、就業時間数は具体的に決めないというのが条件でした。

1912年、この役職は常勤の幹部職となり、理事会がペリー氏の昇給に同意しました。当初、シカゴのラサール通りにあった彼の事務所が、全米ロータリー・クラブ連合会の本部として使われていましたが、1911年、ディアボーン通りとモンロー通りの角にあるファースト・ナショナル・バンク・ビルに本部が移されました。ペリーの在任中、本部はなんと5回引越しをし、そのいずれも賃貸ビルでした。

歴代事務総長の中で最も在任期間の長かったペリー氏は、1911年から1928年まで「ザ・ロータリアン」誌の編集者兼マネージャーも務め、1925年2月には初のロータリー国際事務局をチューリッヒに設立しました。1940年、ペリー氏は退職の意思を表明しましたが、後任者フィリップ C. ラブジョイ氏の研修と引継ぎのため、その後もしばらく事務総長職に留まりました。ペリー氏を1942-43年度RI会長に指名しようという声が多くクラブから上がりましたが、ペリー氏は「お気持ちはありがたく受け止める」と述べながらも、指名を辞退しました。

退任後も、ペリー氏はシカゴ・ロータリー・クラブに所属し続け、1944-45年度にクラブ会長を務めました。1954年、ロータリーは、氏の長年の貢献を称えて「名誉事務総長」の称号を贈ろうとしましたが、ペリー氏はまたもこれを辞退し、普通のロータリアンとしての役目を果たすことを望みました。

1960年2月21日、87歳でペリー氏は他界しました。



# 東日本巨大地震震災被災支援活動の今後 被災地視察を終えて ガバナー会の取りまとめ報告

RID2640G 米田真理子

3月11日に発生した東日本大震災は東北から関東の太平洋岸を中心に未曾有の災害をもたらした。死者行方不明者は26,000人を超えたが(2011.5.12時点)その後減少し、最終的に何人の犠牲者となるのかは震災から3ヶ月が経過しようとしている現在もその全容はつかめていない。

阪神淡路大震災では6,434人が死亡したが、それにたいして573人が災害遺児となった。  
今回は被害の大きさから考えるとかなりの子供たちが遺児となるだろう。

2008年のリーマンショックに端を発した世界同時不況は日本経済にも深刻な影響を及ぼした。企業活動の低下、収益の悪化による雇用の削減などにより所得格差が拡大する中で、社会的弱者である孤児や母子家庭は先の見えない不況下でさらに追い詰められた。

そこに東日本大震災が追い討ちをかけ再び多くの新たな弱者を生んだ。

一家の主柱を失った家庭の将来は一部の生命保険金受給家族を除けば一瞬にして暗転することになる。生活基盤の全てにわたって悪化することが避けられない家庭生活の中であって子供たちが学習意欲を低下させ、将来の希望を失わせることだけは何としてでも回避せねばならないのである。



今こうした災害遺児に一時金を給付したいと考えている団体は数多いときく。しかし、継続的に遺児に寄り添える団体は唯一あしなが育英会があるだけである。

では、あしなが育英会と連携して遺児の教育環境作りをしてゆけばよい、ということになるがそれはそう簡単にはゆかないようなのだ。

これまで40年以上のあしなが育英会の歴史では他の個人の冠をつけたことが一回あるだけである。「あしなが」は他団体と連携せずとも独自に年間20億円の寄付が見込めることから“ブランド色”を薄めることになる連携に積極的ではないのだ。

また、ロータリーで培われた無償の愛の精神、米山記念奨学会のカウンセラー制度等の純粹奉仕のころであしなが育英会を見渡してみると、“高度に組織化された寄付ビジネス”の姿が垣間見える。

ロータリーの持つ濁りのない「超我の奉仕」の精神的純粹性は、ビジネス指向の他団体との安易な連携を容認しないだろう。

ロータリーはその精神にのっとり、徹底的に災害遺児とその家族のところに寄り添えるプログラムを独自に構築してゆくことができる唯一の団体なのだと思う。



# 東日本大震災支援の骨組み

## 1 <設定条件>

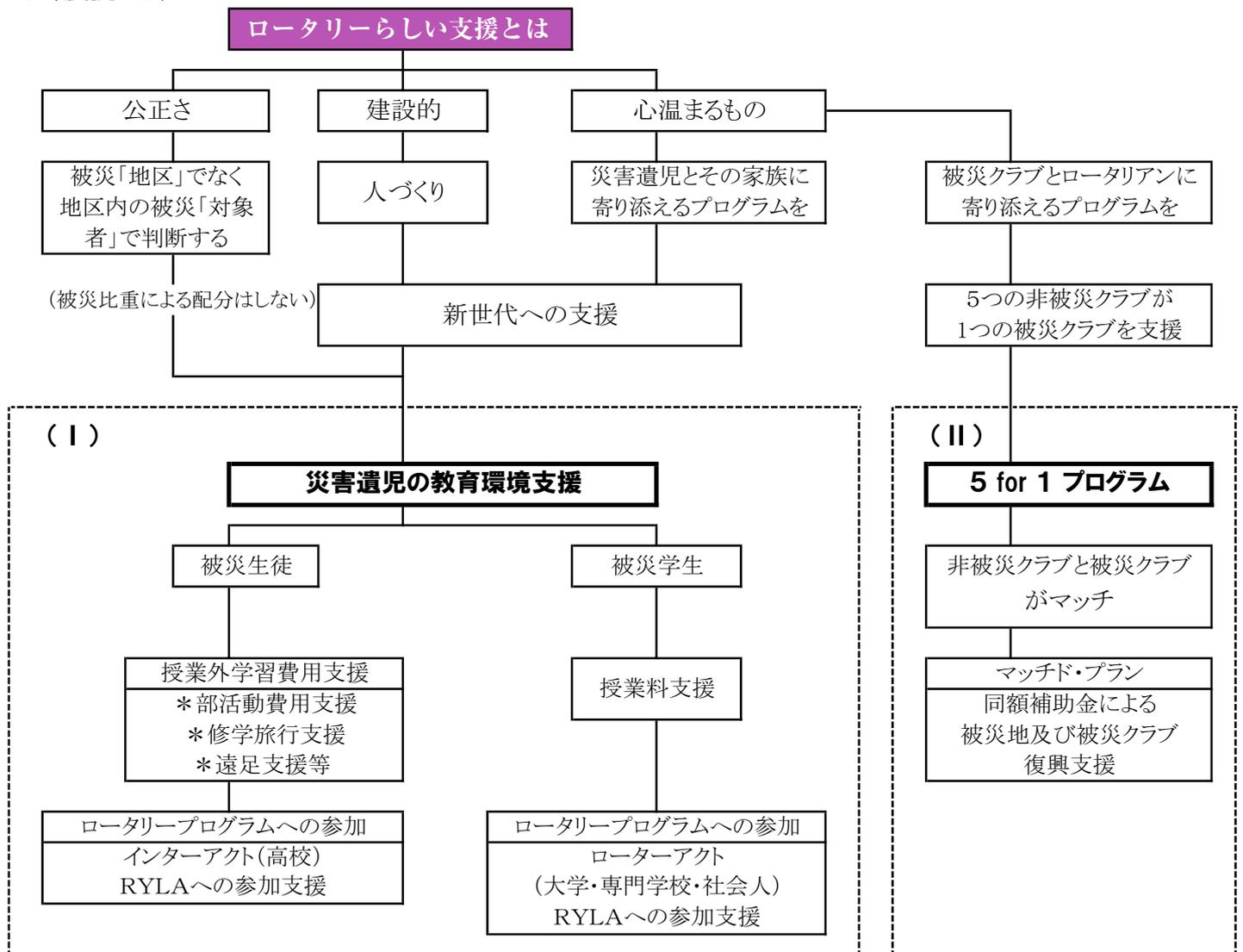
<設定条件> 支援するロータリアンのところに直接訴えかける分かりやすいプログラムを

①	5年程度を目安として募金が終わっていることが望ましい(長期にわたる募金は無理が生ずる可能性大)
②	次年度のうちにそれ以降のプログラムが自動的に推進されるよう、システムを確立する必要がある
③	被災地が広域にわたるため「箱物を作って移管」はむずかしい。「箱物を作って未永く管理運営するのはもっと難しい
④	ロータリー第5奉仕部門となった新世代奉仕(ローターアクト、インターアクト、RYLA)に新風を吹き込みきっかけ作りのできるプログラムであることが望ましい

## 2 <展開 1>

①	災害遺児への教育環境サポートはわかりやすく、被災者のところをとらえる (現況のあしなが育英会+自治体+その他団体サポート では、青少年に十分な学習環境を作っているとは言いがたい)
②	ロータリーにはスポンサークラブ・カウンセラーという珠玉の制度があり、これを有効に使えば就職相談に至るまで一貫して遺児に寄り添うことが可能
③	インターアクト、ローターアクト、RYIAプログラムに遺児たちを参加させることで、各プログラムを活性化できる
④	被災クラブを非被災クラブが主体的に支えるシステム作りをする

## 3 <展開 2>



## 4 〈支援の2本柱〉

	具体的プログラム	解決すべき課題
(I) 災害遺児への教育環境支援	①高校生への教育環境支援	支払い対象者の確定 支払方法(カウンセラー?)
	②大学・専門学校生への授業料支援	支払い対象者の確定 進級の確認 試験制度の確立 支払方法(カウンセラー?)
	③インターアクト, ローターアクト, RYLAへの参加支援	招待プログラムと招待対象者の決定
(II) 5 for 1プロジェクト	①非被災5つのクラブが物心両面で被災1クラブを支援	被災クラブの自主申告と 非被災クラブ5クラブのマッチング
	②マッチド・プラン(同額補助金制度)	支払い判定体制作り

## 5 (I) 災害遺児への教育環境サポート

### (I)-1 災害遺児の把握

① 両親被災＋父親被災者遺児数の想定値

$$a) \frac{\text{阪神淡路大震災の震災遺児数}}{\text{阪神淡路大震災の死者数}} = \frac{573 \text{ 人}}{6,434 \text{ 人}} = 8.9 \%$$

$$b) \frac{\text{東日本大震災の災害遺児数(予測)}}{\text{東日本大震災の死者・行方不明者数(予測)}} = \frac{2,672 \text{ 人}}{30,000 \text{ 人}} = 8.9 \%$$

c) 両親被災と父親被災者遺児数の想定 (災害孤児と母子家庭遺児に支援対象を絞る)

被災者	全体比率	遺児数	奨学金対象者数
両親被災(孤児)	9 %	240 人	1,842 人
父親被災(母子家庭)	60 %	1,602 人	
母親被災(父子家庭)	31 %	828 人	—
	100 %	2,670 人	1,842 人

### (I)-2 あしなが育英会の支援とロータリーの支援案

① あしなが育英会の支援活動

あしなが育英会データから見る災害遺児の教育環境

- ①遺児の母親の勤労年収 149万円／年平均
- ②遺児の大学進学率 41%(全国平均54%)
- ③公立高校生の授業料以外の学費 40万円／年
- ④私立高校生の授業料以外の学費 80万円／年

最も組織的に災害(交通・病気・戦争・テロ・津波・地震・自殺など)遺児に目を向けてきた団体はあしなが育英会である。他の団体や自治体は継続支援ではなく、特別一時金支給が多いようである。

育英会では奨学金を設定し、高校、大学、専門学校などに進学を希望している経済的に苦しい遺児に貸し出して支援している。その制度は

1. 高等学校、高等専門学校奨学金(国公立:25,000円/月 私立:30,000円/月)
2. 大学、短期大学奨学金 (一般:40,000円/月 \*特別50,000円/月)\*特別困窮家庭
3. 専門学校奨学金 (40,000円/月)
4. 大学院奨学金 (80,000円/月)

(いずれも貸付月額)

奨学金は無利子で卒業後20年間で分割返還(いずれの場合も論文と面接試験を実施)となっている。しかしこの支援だけでは苦学をすることが避けられず、進学を諦める生徒も多いようだ。

# 東日本大震災支援の骨組み

## ②ロータリーの支援案

これに対してロータリーは中学生から大学卒業までの教育環境支援と位置付け、返済を求めないことを前提に以下の支援を行う。

1. 高等学校・高等専門学校奨学金 (一律 20,000 円/月)
2. 大学・短期大学・専門学校奨学金 (一律 500,000 円/年)

全ての支援金は返済を求めないものとする。

但し、大学・短期大学・専門学校奨学金の支給には面接と論文試験を実施し、合格者のみへの支給となる。またロータリーのスポンサークラブとカウンセラーを設定し、年に4回例会に参加することを義務付ける。

無論このロータリー支援だけでは十分な教育環境が整うことにはならないだろうが、ロータリー支援(返済なし)とあしなが育英会(返還義務)の両方を利用することによって(あるいは自治体によっては若干の個別支援もあるかもしれない)進学しやすくなってくるものと思われる。

### (1)-3 各種支援に要する費用試算

#### (1)教育環境支援奨学金 (高校入学から卒業まで)

就学別状況	想定比率	人数	高等学校			金額
大学・専門学校生	( 19 %)	350 人				0 万円
高校生	( 24 %)	442 人	1.5 年	2 万/月	12 月	15,912 万円
中学生	( 20 %)	369 人	3.0 年	2 万/月	12 月	26,568 万円
小学生	( 27 %)	497 人	3.0 年	2 万/月	12 月	35,784 万円
小学生未満	( 10 %)	184 人	3.0 年	2 万/月	12 月	13,248 万円
計	( 100 %)	1,842 人				91,512 万円

#### (2)大学・専門学校就学支援 (授業料支援)

就学別状況	進学人数	支援年数	計 算 式	金額
現在大学生・専門学校生	350 人 × 100 %	年	多くの大学では授業料免除を実施している	0 円
現在大学生未満	1,492 人 × 54 %	4 年	進学者のうち 70 %が受給 50 万円/年人	112,795 万円
計				112,795 万円

(3)インターアクト, ローターアクト, RYLAへの参加支援等 (想定) 5,693 万円

### (1)-4 災害遺児への教育環境支援プログラム実施費用 (災害遺児 1,842 人の場合)

$$91,512 \text{ 万円} + 112,795 \text{ 万円} + 5,693 \text{ 万円} = 210,000 \text{ 万円} \quad \Rightarrow (1)$$

## 6 (II) ファイブ・フォー・ワンクラブ プログラム

### (II)-1 ファイブ・フォー・ワンクラブ(5 for 1 club)とは

「ファイブ・フォー・ワンクラブ」は日本中のロータリークラブが手に手をつないで、東日本大震災の被災地へ支援を届ける制度です。

#### ファイブ・フォー・ワンクラブのコンセプト

「ファイブ・フォー・ワンクラブ」とは、被災地にある1つのロータリークラブと、被災地外にある5つのロータリークラブが一組となってチームで活動するシステムです。日本全国のロータリークラブからの支援が被災地のニーズを的確にとらえ、迅速且つ公平に全ての被災地域へ支援の手が差し伸べられるようにすることを目的としています。

#### ファイブ・フォー・ワンクラブ活動内容

- 1 被災地でロータリー活動が続けることが困難な状況にあるクラブを、5つのクラブが協力してロータリークラブとして復興できるよう支援します。
- 2 被災地の被災支援のニーズを持っている地元のクラブと、被災地外のクラブが協力して、被災地の現状の改善を支援します。
- 3 被災地の復興支援のニーズを持っている地元のクラブと、被災地外のクラブが協力して、長期的視野に立ち、被災地の復興支援を支援します。

チーム結成後、被災地外のクラブが被災地のクラブを訪問してチームミーティングを行い、それぞれの地域の状況により、1～3のいずれかの形をとるか(複数でもよい)を検討し、決定します。

#### ファイブ・フォー・ワンクラブのチーム作り

被災地の地区のロータリークラブで、ファイブ・フォー・ワンクラブに参加するクラブのリストを作成します。(現在2520地区より26クラブ)被災地外の地区で、ファイブ・フォー・ワンクラブに参加する地区のリストを作成します。各地区が担当するクラブ数を決定します。(1～8クラブを目安)参加地区の担当する被災地区のロータリークラブを決定します。それぞれのちくでファイブ・フォー・ワンクラブに参加するクラブを募り、チームを作成します。

例:2750地区の場合。 8クラブを担当し、地区内8つあるグループがそれぞれ1チームを作成します。

#### ファイブ・フォー・ワンクラブの活動期間

各地区の担当クラブを決定し、地区内で参加クラブが集まりチームができ次第、迅速に活動開始します。活動期間はそれぞれのチームの任意とします。

#### ファイブ・フォー・ワンクラブの補助金

チームが行う支援プロジェクトが、ロータリー財団の人的補助金の対象となる場合は、積極的にそれに申請するようにします。その他、「マッチド・プラン」と称する補助金制度を設け、ガバナー会に集められた義援金の一部をファイブ・フォー・ワンクラブのプロジェクト用に役立てるようにします。「マッチド・プラン」は基本的にはクラブが用意した資金にマッチングする形での補助金とします。

#### その他

チーム作りは被災地の1つと被災地外の5つを基本とはするが、被災地外のクラブ数はこれに限定せず、これより多くても少なくても構いません。また、海外のロータリークラブを加えてのチーム作りも可能です。活動内容は上記にあげた3点以外でも、親睦等の交流なども含めて、チーム内で相談して行うことができます。

マッチド・プランとは、プログラム運営費用として非被災クラブが支出する支援総額合計と同額の補助金をガバナー会に集まった資金から支出する。

1クラブあたり 500 万円 被災 30 クラブと仮定すると、仮定総額 15,000 万円 ⇨ (II)

## 7 プログラム運営経費

ガバナー会事務所

人件費	300 万円／年 × 2 名 × 5 年	=	3,000 万円
	300 万円／年 × 1 名 × 15 年	=	4,500 万円
事務費	300 万円／年 × 20 年	=	6,000 万円
その他経費	300 万円／年 × 20 年	=	6,000 万円
			19,500 万円 ⇨ (Ⅲ)

## 8 プログラム運営予定総額

$$(Ⅰ) + (Ⅱ) + (Ⅲ) = 244,500 \text{ 万円}$$

## 9 募金活動の目標

1年目(今年度)	8.0 億円	義援金残高
2年目(次年度)	5.6 億円	8 万人 × 10,000 円 × 70 %
3年目(次々年度)	5.6 億円	8 万人 × 10,000 円 × 70 %
4年目	2.8 億円	8 万人 × 5,000 円 × 70 %
5年目	2.8 億円	8 万人 × 5,000 円 × 70 %
計	24.8 億円	

## 東日本大地震・津波遺児特別一時金・奨学金出願状況

就学状況	東日本大地震・津波遺児										阪神大震災遺児			
	父が被災			母が被災			両親が被災			被災者 不明	合計	割合	合計	割合
	計	死亡	不明	計	死亡	不明	計	死亡	不明					
就学前	54	35	19	19	13	6	1	0	1	5	79	11.1%	77	13.4%
小学生	116	81	35	56	46	10	9	8	1	11	192	26.9%	131	22.8%
中学生	70	51	19	46	35	11	10	8	2	15	141	19.8%	120	21.0%
高校生	76	58	18	50	39	11	23	14	9	19	168	23.6%	149	26.0%
大学生 専門学校生	83	61	22	33	24	9	16	12	4	1	133	18.7%	86	15.0%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	10	1.8%
合計	399	286	113	204	157	47	59	42	17	51	713	100%	573	100%

被災県別 問合せ者数	岩手県	宮城県	福島県	地域不明	合計
問合せ数	224	410	68	11	713
死亡者	4,216	8,702	1,454	63	14,435
不明者	3,496	6,695	1,406	4	11,601
計	7,712	15,397	2,860	67	26,036
問合せ率	2.90%	2.66%	2.38%	16.42%	2.74%

「あしなが育英会」情報

2011年5月12日 現在

4つの大震災 義援金使途

	死者・行方不明者	被災地	義援金額	義援金の使途
(1923年) 関東大震災	200,000 人	東京クラブ	(89,000トル) 約3.3 億円	(1) 孤児院の建設 (2) 焼失小学校188校に黒板、日本地図、世界地図、大型そろばん寄贈 (3) 殉職警察官遺族に寄贈 (4) その他
(1995年) 阪神・淡路大震災	6,443 人	2680地区	約8 億円	<b>被災クラブ見舞金 36クラブ × 100万円 = 3600万円</b> (1) ロータリー留学生の家建設 (2) ロータリー子供の家建設 (3) 復興支援事業半額補助金・・・マッチド・プラン (4) その他
(2004年) 新潟中越大震災	40 人	2560地区	約1.3 億円	3本柱の設定 (1) 復興支援事業半額補助金・・・マッチド・プラン (2) ロータリー支援奨学金・・・年収300万円未満家庭の中高生に20万円/人 (3) 支援継続準備金・・・雪解けの頃に想定される困窮事業
(2011年) 東日本大震災	30,000 人 (?)	2520地区 2530地区 2820地区 2550地区 2790地区 2830地区	約9 億円	<b>被災地区見舞金 11500万円(被災6地区に配分)</b> 2本柱の設定 (1) 災害遺児教育支援・・・高校生と大学生の奨学金給付 (2) 5 for 1プログラム・・・非被災5クラブがグループを作り、1被災クラブの 地元支援プログラムをサポート(マッチド・プラン)

## 第2520地区被災沿岸46クラブ一覧

No.	地区	分区	クラブ
1	2520	第1	久慈
2			種市
3		第3	大船渡
4			大船渡西
5			陸前高田
6			気仙沼
7			気仙沼南
8		第4	釜石
9			釜石東
10			大槌
11			宮古
12			宮古東
13		第5	山田
14			石巻
15			石巻東
16			石巻西
17		石巻南	
18		第6	松島
19			塩釜
20			塩釜東
21			多賀城
22			利府
23		七ヶ浜	
24		第8	岩沼
25			名取
26			亶理

No.	地区	分区	クラブ
27	2530	相双	浪江
28			富岡
29			小高
30	2820	1	日立
31			日立南
32			高萩
33			北茨城
34			日立港
35			日立北
36		日立中央	
37		2	那珂湊
38			大洗
39			勝田
40			東海那珂
41	ひたちなか		
42	8	潮来	
43		鹿島臨海	
44		波崎	
45	鹿島中央		

連絡先をご希望の方は、  
ガバナー事務所までお問い合わせください。

# 泉州KUMATORI RC 認証状伝達式

2011年6月4日 全日空ゲートタワーホテル



# 初芝立命館高等学校インターアクトクラブ 認証状伝達式

日時:6月5日(日)10:00～

場所:初芝立命館高等学校

**認証日** 2011年5月10日  
**提唱クラブ** 堺フェニックスロータリークラブ

**会長** 片木 修  
**幹事** 京谷 知明  
**インターアクト委員長** 岡田 正一

**初芝立命館高等学校**

**校長** 岡村 務  
**インターアクトクラブ顧問** 八十田律子  
**インターアクトクラブ会長** 玉井 栄治  
檀野 明佳



# 賢明学院中学高等学校インターアクトクラブ 認証状伝達式

日時:6月25日(土)14:00~

場所:賢明学院中学高等学校

認証日 2011年5月26日  
 提唱クラブ 堺フラワーロータリークラブ

会長 堀本 欣吾  
 幹事 但見 淳

賢明学院中学高等学校 校長 篠原 康二  
 インターアクトクラブ顧問 中村 直紀  
 インターアクトクラブ会長 豊田 連加



## 6月12日 インターアクト新入生歓迎会



## 6月17～19日 青少年交換委員会 2640・2660・2680地区合同広島方面研修旅行



## 6月25日ロータリー財団オリエンテーション



## 6月26日ローターアクト地区大会「虹」



ガバナー賞 河内長野ローターアクトクラブ  
中西委員長賞 岸和田ローターアクトクラブ  
ローターアクト地区代表賞 松原ローターアクトクラブ



## 2010-2011年度ガバナー事務所

〒590-0021 大阪府堺市堺区北三国ヶ丘町1丁1番16 C棟14号  
ガバナー事務所 (7月1日より)

TEL : 072-224-2640

FAX : 072-224-2650

E-mail : [info@rid2640yoneda-g.org](mailto:info@rid2640yoneda-g.org)

HPアドレス : <http://www.rid2640g.org> (継続)